

来年8月、延岡と宮崎で

ひむかオペラ歌劇ラ・ボエーム

1/26 2カ所上演は初 結団式で成功誓う



来年8月の公演に向けて行われたひむかオペラ第4弾・歌劇「ラ・ボエーム」の結団式

県北出身、在住者を中心に上演する「ひむかオペラ」の第4弾としてフッチー二作曲の歌劇「ラ・ボエーム」(全4幕)が来年8月11日に延岡総合文化センター大ホールで、同18日に宮崎市メディキット県民文化センター演劇ホールで上演される。今月24日に延岡市総合文化センターで結団式があり、主催者や出演者ら約60人が成功を誓った。2会場での上演は初めて。主催は、ひむかオペラ協議会、のべおか文化事業団、県立芸術劇場(宮崎公演)。

歌劇「ラ・ボエーム」には、県北などで活動する声楽家とピアニストでつくる「ひむかオペラの会」、延岡フィルハーモニー管弦楽団、一般公募による「ひむかオペラ合唱団」が出演する。結団式では、同協議会の岡野徹会長がこれまでの3回を振り返って「皆

頑張りました」とあいさつした。関係団体の代表者のあいさつや配役やスタッフの紹介も行われ、このうち、公演を主催するのべおか文化事業団の青井雄二事務局長は11月24日がおペラ記念日であることに触れて「この記念すべき日に活動がスタートする。皆で気持ちを同じく

歌劇「ラ・ボエーム」1830年ごろのフランス・パリが舞台。お針子のミミ、詩人ロドルフォ、画家マルチェッロ、音楽家ジョナール、哲学者コッリネを中心にした恋や青春の物語が繰り広げられる。オペラ初心者でも気軽に見られる作品で、「ミミのアリア」など有名な曲がちりばめられており、世界中で人気のある演目という。ひむかオペラではイタリア語で上演が行われ、日本語の字幕が付く。

して頑張りました」と。県立芸術劇場の佐藤寿美理事長(延岡市出身)は「12月からさっそく練習が始まる。来年の夏、延岡と宮崎で素晴らしい舞台を拜見できることを楽しみにしています」と話した。現在、小学4年生以上

を対象にひむかオペラ合

五輪選手 モニュメント再び

1/26 工事で一時移設 延岡駅前



移設された延岡ゆかりの歴代オリンピック・パラリンピック出場者の手形・足形モニュメント(24日、延岡市のエンクロス西側の市民交流広場)

延岡駅周辺整備事業に伴って撤去されていた「延岡市ゆかりの歴代オリンピック・パラリンピック出場者・手形足形モニュメント」が、エンクロス西側の市民交流広場に移設され、24日に記念セレモニーがあった。

モニュメントは平成11年3月、JR延岡駅前の広場に整備し、1992年のロサンゼルス五輪の陸上競技に出場した大木正幹さんから27人のプレー

トを設置。その後、同市ゆかりの選手が五輪に出場することが増やしていった。同事業に伴い、28年1月に撤去し、市有地で保管。今年10月から

移設工事に着手した。保管中にリオデジャネイロ五輪が開催されたため、移設時には5人分増えてプレートは46人分となった。2020年の東京五輪など今後の若い世代の活躍を見据えて、追加で5人分のプレートが設置できるようにしている。

山本一丸副市長は「たくさんの方の目に触れることで、アスリートタウ

ン延岡をアピールできる。子どもたちにも触れてもらい、次の五輪を目指す選手が輩出されれば、さらなる情報発信になる」とあいさつ。リオ

五輪のマラソン競技に出場した旭化成陸上部の佐々木悟選手は「延岡ゆかりの選手たちのプレートがさらに多く設置され、延岡全体が盛り上がることを願っている」とお祝いをした。